

## 2016 年度 PC 実技第 1 問

／2 番、乳幼児教育相談とは。子どもたちに指導をするというよりは、乳幼、乳幼児教育相談では、保護者の方が学ぶ場です。保護者の方が、聞こえない、聞こえにくいお子さんの子育てについて学ぶところです。就学前の乳幼児期から、相談支援が受けられます。生後 2～3 か月の赤ちゃんも来校します。以前は、聴覚障害がわかる生後 6 か月、7 か月ぐらいの赤ちゃんが多かったんですが、新生児聴覚スクリーニングが普及してきて、生後 2～3 か月の赤ちゃんでも来校するようになってきました。乳幼児教育相談では、いろいろな悩みや不安を持ったお母さんが来校されます。例えば、新生児聴覚スクリーニング検査で、リファアと言われて、不安でしょうがない。または、呼びかけやおもちゃの音、大きな音などに気がつかない。大丈夫かしら。それから、うちの子、あまり声を出さないような気がする。言葉の発達も遅いかも。何だか心配です。このような保護者の方がいらっしゃいます。お子さんの聞こえと言葉の発達でご心配のある方の相談に、いろいろ応じていきます。就学前の乳幼児とその保護者を対象に、週 1 回から 2 回程度の継続的な教育相談を行っています。

3 番。新生児聴覚スクリーニング検査の普及についてお話しします。先ほど、新生児聴覚スクリーニング検査の普及に伴って、生後 2～3 か月の赤ちゃんから来校するようになったと言いました。この検査の普及によって、あの本当に聴覚障害児の聴覚障害児の早期の発見が可能になってきています。今までは早期に発見しにくかった中軽度難聴の障害児、または聴覚障害を合わせ有する重度重複児も発見されるようになってきました。対象乳幼児数も増えてきています。また、東京都の特別支援教育推進計画では、東京都として、ろう学校における早期、早期教育相談の重要性も示されています。

ここで、その、新生児聴覚スクリーニング検査から乳幼児教育相談に来るまでの流れを簡単にお話します。まず、産婦人科、産科などで、新生児聴覚スクリーニング検査を実施します。生まれてすぐの実施です。ここで、リファアといわれてショックを受けた親御さんへの支援が開始されます。お母さんの心理的なケア、子育て支援、情報提供をしていきます。このときのお母さんは、あの病室、病室に並ぶ新生児、赤ちゃんたちを見て、祝、祝福されて生まれてきたはずの子が、何でうちの子だけ聞こえないの。ってというような思いになる。というような話もよく聞きます。とてもつらいことなんだなということも感じています。そのあと、耳鼻科に行って、精密検査を行います。これは生後 6 か月、7 か月ぐらいから検査ができます。ここで、聴覚障害があります、と告知された親子への支援が始まります。聴覚活用の支援、コミュニケーションの支援、お母さんの心理的なケア、このようなことをやっていきます。そして、乳幼児教育相談、ろう学校の乳幼児

教育相談で、早期支援が開始されます。教育療育のスタートです。ここで保護者に対する、保護者の不安に対する継続的なサポート。確定診断前のあいまいな状況に置かれた母親の不安に寄り添う支援。具体的な情報提供。難聴であるかもしれない赤ちゃんとのコミュニケーションサポート。発達と照らし合わせながらの聴力レベルの評価。このようなことをしていきます。